

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年8月6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891900045		
法人名	有限会社 バディ		
事業所名	グループホーム けやき	ユニット名	A
所在地	〒300-1216 茨城県牛久市神谷1丁目14-3		
自己評価作成日	平成26年12月 日	評価結果 市町村受理日	平成27年8月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0891900045-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年2月5日	評価機関 決済日	平成27年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・家庭的な環境の中で、ご利用者様、ご家族様とスタッフとの信頼関係を築き、ご利用者様お一人お一人の思いを大切に、その人らしい「暮らし」が出来るように支援をしています。

・自治会、近隣住民、ボランティアなどの方々との交流や協力、行事への積極的な参加により、地域社会の一員であることを大切にしています。

・畑に囲まれた閑静な住宅街の一角にあり、利用者様は散歩に行くなど季節の移り変わりを、全身で感じながら生活することができる。

・個の機能を最大限に引き出すことのできるような、関わり、レクリエーションを目指し、日々職員同士のコミュニケーションをはかっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の周りには畑やゴルフ場、学校などがある住宅街の閑静な場所にあり、事業所が自治会に加入しており、回覧板の受け渡しや地域の防災訓練、祭りなどに利用者と職員で積極的に参加し、地域との交流を図っている。

管理者は職員と日頃から何でも話せる関係を築き、意見や要望を聞いて働きやすい職場の環境づくりに力を入れているほか、職員同士のコミュニケーションを図ることにより、信頼関係を築いている。

事業所主催の行事には地域住民の参加を得たり、地域のボランティアなどを定期的に受け入れたりと、地域住民と交流ができるよう支援をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、居間兼食堂や休憩室に掲示しています。毎日の朝礼で唱和し、各ユニット会議で再確認し理念に基づいたサービスの実践に努めています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、居間兼食堂や休憩室に掲示している。職員は理念を毎日の朝礼で唱和し確認をしているほか、月1回の各ユニット会議で再確認をして認識を深め、共有しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア、自治会、近隣住民の方々と季節の行事のお手伝いや、避難訓練に参加して頂いたりしています。また、自治会から防災訓練に参加依頼をいただくなど、良好な関係が築けており、地域社会の一員として交流出来るよう支援しています。	自治会に加入し、管理者は総会に出席しているほか、自治会主催の地域防災訓練に利用者と職員が一緒に参加するなど、地域の一員として交流している。職員は自治会の依頼で、地域住民に車いすの操作方法を指導している。事業所の秋祭りやクリスマス会などの行事に地域住民を招待するほか、歌やコンサート、フラメンコなどの地域のボランティアを定期的に受け入れ、利用者が地域の人々と交流ができるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の防災訓練では、自治会の依頼を受け、車椅子の操作、移乗、介助の指導をする等行いました。地域の方々も大変興味を示されていました。また主催者のご厚意で多数の利用者様と炊き出しの味噌汁、つくたてのおもちを頂きその場で食べるなどし、場を盛り上げ交流を深めました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成26年12月現在で31回を数え、様々な立場からの、助言やご意見をいただいています。助言により、嚥下機能の評価を訪問看護に依頼し作業療法士による評価を受け、介助方法等適切な指導をいただくことができたなどサービスの向上に活かすことができています。	運営推進会議は家族等や地域包括支援センター職員、民生委員、区長、地域住民、職員で2ヶ月に1回開催している。会議では事業所の活動報告や行事予定、運営状況の説明をするほか、出席者と活発な意見交換を行い、出た意見などをユニット会議で報告や検討を行い実践するなど、サービスの質の向上に活かしている。「嚥下機能の評価について作業療法士に指導を受けてはどうか」など、出席者からの提案を受けて職員会議で協議し、訪問看護に依頼して作業療法士による介助方法など、適切な指導を受けている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問を積極的に受け入れ、ケアの向上と職員の意欲向上にも役立っています。また、医療連携体制の整備の際は、指針の案の段階から相談をさせて頂き、手続き方法に至るまで助言を頂きました。	管理者は日頃から市担当者に疑問点を電話で相談したり、市に積極的に足を運んで空室状況やケアサービスの取組みを伝えているほか、月1回来訪する市の介護相談員から、対応事例が記載された「苦情・要望事例等対応連絡票」を受け、それをもとに職員で話し合うなど、連携を図りながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議で資料を配布するなどして取り組んでいます。ケアの中で困難なことが出来たときは、身体拘束をしない他の方法をユニット会議等を通じ話し合っています。玄関の施錠に関し、職員教育の徹底を図り、利用者様の様子をみながら、1日のうちの数時間から実施を試みています。	管理者は身体拘束排除に関するマニュアルを作成し、月1回のユニット会議を利用して職員研修を実施するとともに、事例を通して話し合いを行い、再確認をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。帰宅願望の強い利用者がいるため、玄関やウッドデッキに続く窓には施錠をしており、家族等には説明をして書面で同意を得ているが、解除に向けての取組みがされていない。	玄関やウッドデッキに続く窓の施錠は身体拘束に該当するため、「経過観察記録」や「再検討記録」を整備し、全職員で解除に向けて取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議で、資料を配布するなどし、再確認するように努めています。特に言葉の暴力など気を付けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援を活用されている、ご利用者様には、ご本人様に積極的に関わって頂き、不明な点は、その都度伺うなどの支援をしています。また、新たに成年後見人がついた方があり、今後勉強会の実施を提案させていただく予定です。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談の段階から、ゆっくり時間を取り、ご説明させていただいています。契約の際には、十分な納得が得られるよう、時間をかけご説明させていただき、色々なお話を伺いながら、聞きやすい環境作りに配慮しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常中のご利用者様のお話や、家族会、運営推進会議、面会時などで得たご家族からのご要望に真摯に耳を傾け、ユニット会議や運営推進会議などで協議し、運営に反映しています。独自アンケートに関し検討し案を作成しています。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等からは来訪時や運営推進会議、家族会などで意見や要望を聴くように努めているほか、介護相談員を受け入れて情報を収集している。 「外出の機会を増やしてほしい」や「福祉用具を教えてほしい」など、利用者や家族等から出た要望等を受けて職員会議で協議し、月1回外出できるようにしたり、福祉用具のカタログを配布するなど、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話の中からは出る意見、要望を大切にし、ユニット会議などでも意見、要望の出しやすい環境作りに配慮しています。またそれらの意見、要望は会社役員に上げ、随時回答するようにしています。ユニットロッカーの棚の整備など行いました。	管理者は日頃から職員が意見や提案を出し易いよう、コミュニケーションを図るほか、個々の事情を汲み入れた働き易い職場の環境づくりに努めている。 管理者は月1回のユニット会議で職員の意見や要望を聞いており、行事の提案や各職員のロッカー購入、勤務体制への配慮など、出た意見等を検討して運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に伴う賃金アップ、スキルアップのための研修会への参加支援、希望労働時間、休暇の取得、会社役員とのコミュニケーションなど、職員がやりがいを持てる環境整備をしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じ研修会への参加、ユニット内での勉強会、研修報告による学習、現場でのトレーニングには経験のある職員が当たり行っています。係など役割を持つことにより積極的にユニット運営に関わることができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議には、同業者の参加もあり、情報交換を行っています。同業関係者の主催する勉強会や見学会に参加し研鑽、コミュニケーションをはかっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	併設している小規模多機能型施設での待機者の入所が続いています。既に顔なじみであることや、居室等の雰囲気などが似ていることなどから、環境に慣れるのが早い、職員間の引き継ぎ、情報提供もダイレクトに聞けるので安心の確保につながっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後の様子をきめ細かく報告をしています。疑問やご要望も都度お答え出来ないことにも必ず後日回答しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査の様子、ご本人との面談、ご家族のお話を合わせ、必要な支援が行えるよう努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく暮らして行けるようお話を傾聴し、必要な支援をしつつ、時には相談し教をを請う、時には共同作業をするなどしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出、外泊を支援し必要な準備に協力しています。またできるだけご要望にはお答えできるように対応しています。生活歴やご家族との関わりを知り、日頃の会話にご家族のお名前を出すなどして、ご家族との関係を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に了解を得たご友人などの面会、電話の取次などを行っています。また生活歴や要望に合わせて外出先を考えるなどの支援をしています。ご家族のご協力を得てなじみの美容院へ通われています。	入居時に利用者や家族等から話を聴いたり、アセスメントシートを活用して利用者のこれまでの生活歴や馴染みの人、場所などを把握している。 利用者の馴染みの人がいつでも気軽に来訪できるようお茶を出して接待するほか、家族等の協力を得て馴染みのスーパーや美容室、墓参りに行けるよう手配するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の会話は困難な事が多い為、配席を考慮したり、職員が間に入るなどし会話がうまくゆく様支援したり、レクリエーションなどを通じ、共通の楽しみ、会話が生まれるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じ相談、支援を行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中の会話や行動、表情より希望、意向を把握し、ユニット会議や日々朝礼での申し送りなどで職員間の情報の共有をしています。	職員は日常の関わりや会話を通して利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めるとともに、申し送りノートに記載してユニット会議で話し合い、全職員で共有している。 意思表示が困難な利用者には、日々の生活の中で表情や仕草から判断したり、家族等から情報を得ているほか、ユニット会議で話し合い利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の調査から、ご家族への聞き取り、ご本人様のお話などを合わせ、十分に把握するようにつとめている。また必要な情報に関して、その都度ご家族様、ご本人に情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の記録の継続や職員の気づきにより、変化を読み取り、現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様ご家族様のご要望はもとより、職員の意見も取り入れ、介護計画の作成をし、定期的にモニタリングを実施しています。また、ご利用者様の心身の状態の変化が生じた場合はその都度見直しを行っています。	計画作成担当者が利用者や家族等の希望を取り入れ、ユニット会議で課題やケアのあり方を話し合い、意見をまとめて介護計画を作成するとともに、家族等の同意を得ている。 職員が毎日記入する利用者の介護記録を基に、介護計画は3ヶ月毎にモニタリングを実施して見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に対しスタッフ間の情報を共有し迅速に改善、計画見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望、身体状況など踏まえながら外出の機会をつくっています。医療機関の対応なども臨機応変に対処し可能な限りニーズ沿うようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア、自治会の皆様など本人に合った事を考えて下さり、充実した時間を過ごして頂いています。畑作業のボランティアでは、作業出来る利用者様は作業し、作業が困難な利用者様はデッキで見学したり、興味の無い方には紙芝居を読むなどして下さっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回協力医療機関の医師による訪問診療を受診できる体制になっている。利用者、家族等の希望にそうかかりつけ医への通院や往診を支援している。受診結果は家族等に電話や便りなどで報告している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診は、家族等の付き添いを基本としているほか、協力医療機関の医師による月1回の訪問診療も受診できる体制となっている。 受診結果は随時家族等に報告するとともに、受診記録に記載して職員で共有している。 契約訪問看護ステーションの看護師が、週1回利用者の健康管理に来院しているとともに、24時間連絡体制を確保している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、週1回の定期訪問と、24時間の訪問看護との協力体制が整っているため、その都度相談、訪問を行うことができます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報はすぐさま提供できる様整えています。入院中は積極的にお見舞いに伺い現状の把握に努め、相談員との連絡を密にし、退院時のインフォームドコンセントにはご家族の理解を得て同席させていただき、退院時のケアに役立っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	6月の家族会を経て7/1より医療連携体制加算の導入をしました。今後職員研修の実施について訪問看護師と相談しながら行う。	事業所は重度化や終末期に向けた対応指針を代表や管理者、職員で話し合いを行い、「看取り介護に関する指針」を作成するとともに、医療連携体制を整えたが、職員研修を実施するには至っていない。 平成26年6月の家族会において、事業所の看取り介護に関する指針を利用者や家族等に説明して同意を得ている。 利用者の状態変化に応じて、段階ごとに利用者や家族等の意向を確認している。	看取り介護に関する職員研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて職員研修実施し内部研修。AED研修実施。通報連絡を分かりやすく掲示しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、近隣者協力のもと年2回防災訓練実施。出入口スロープ施工。自動火災報知機点検。緊急連絡網再点検。災害に備えた備蓄品のリストにより消費期限の把握に努めています。	年1回消防署立会いのもと夜間を想定した避難訓練を近隣住民の参加を得て実施しているが、年2回以上の避難訓練を実施するには至っていない。 避難訓練の実施記録を作成し、訓練で明らかになった課題を全職員で話し合っって記録に残し、次回の訓練に活かしている。 災害に備えて食料品や日用品など、備蓄品リストを作成して定期的に点検している。	避難訓練においては自主訓練を含め年2回以上実施することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様お一人お一人の個性やこだわりを把握し大切に、人格、プライバシーに配慮した、声掛け配置に努めています。	職員は利用者の個性やこだわりに配慮し、一人ひとりの人格を尊重して入室時のノックや声かけ、排泄時の声かけなど、周りの利用者にも配慮しながら対応している。 個人情報に関する書類は、各ユニットの鍵のかかる戸棚に保管し、情報の漏洩に留意している。 個人情報を使用する場合は、家族等の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自己決定出来るよう、また、しやすいような、問いかけ、話しかけなどの工夫に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様お一人お一人のペースに合わせて、心地良く過ごして頂けるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の身だしなみは、さりげなく支援を行い、外出時や来客時には、少し華やかにご本人のご意向を尊重し支援しています。毛染めやパーマにも対応しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事ごとに合わせた献立や、何時もととは違う外出先での外食などの変化と、日常の職員が作る家庭料理を楽しんでいただいています。キッチンからの匂いに話を弾ませることもあり、ご利用者様、自ら後片付けを買って出ることが日常になっています。お誕生日には少しおしゃれをし、職員と外食に出かけお一人だけの特別な時間を設けお祝いしています。	生協から定期的に購入する食材を各ユニット毎の調理担当職員が、栄養バランスを考えてその日の献立を立てて調理をし、職員は利用者と一緒に同じ食卓を囲み、温かい食事が摂れるように支援している。 利用者はできる範囲で盛り付けや配膳、後片付けなどの役割を担いながら食事を楽しんでいる。 お節料理や出前弁当、恵方巻きなどの特別食を取り入れたり、ファミリーレストランなどへ外食に出かけたりして食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量記録、声掛けを実践しています。定期的な血液検査、体重の増減の把握に努めています。職員に高齢者の脱水と水分摂取の必要性を周知徹底しています。必要に応じ食事介助を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の受診を行って頂くと共に、毎食後必要に応じ、声掛け、見守り、仕上げ磨き、などの支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを記録し把握することにより、適切な時間に誘導出来るように努めています。適切な支援によりリハパンを使用されていたり、パットをしていた方が不要になりました。パットの使用に関しては、ご家族も含め検討し慎重に行っています。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導し、トイレで排泄や排泄の自立ができるよう支援している。 夜間おむつを使用している利用者でも、日中はリハビリパンツを使用して声かけ誘導し、トイレで排泄ができるよう支援している。 夜間はポータブルトイレや声かけ誘導をして、おむつの使用を減らすよう努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行などの運動、水分摂取、食物繊維が摂れるような食事の工夫により予防に心がけています。主治医の指示に基づき、下剤などによる排便コントロールを行い、必要に応じ訪問看護による適便を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	声掛けの工夫を、お一人お一人に合わせて行っています。希望のある方は、できるだけ入浴出来るよう、拒否のある方も、気分を変えタイミングを見計らい行っています。時には小規模の浴室を利用したり、入浴剤を変え気分転換も行っています。一人では不安な方は、ご本人、ご家族の同意を得て他の利用者様と一緒に入浴されることもあります。	風呂は利用者の希望にそっていつでも入浴できるようになっており、最低でも週2回入浴ができるよう支援している。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、時間をずらしたり、声かけする職員を替えるなどの工夫をしている。 菖蒲湯やバラ湯、入浴剤などを取り入れ、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人に合わせた支援を行っています。ご自分でコントロール出来る方、フロアで過ごしたい方、居室で過ごしたい方、早くに休みたい方、薬や認知症の進行から、ご自分では眠りにくい方は繰り返し誘導しています。日中の過ごし方についても、アクティビティに過ごして頂けるよう工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時だけでなく、受診時でもできるだけご家族と同行し、的確に状況報告し、適切な服薬が処方して頂けるよう支援し、処方された薬に関しては、申し送りなどで職員に周知、経過観察を行っています。服薬の際には4回のチェックと確認表への押印により誤薬の防止につとめています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた壁の飾りなどは、できることをできる方と、それぞれに合った作業をしていただいています。カラオケなど趣味にされていたことを、施設でも引き続き行って頂けるよう小規模と合同で行うなど工夫をしています。廊下に写真を掲示したり、アルバムに残し見返すなどしお話が弾むこともあります。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩ではその日のご希望に沿って戸外へ出かけていただいています。デッキでのんびり過ごしたりも自由にされています。ご本人様の日用品だけでなく、施設の買い物や、役所関係などにも同行していただいています。ユニットの皆さんでドライブに出かけることもあります、ご家族にも外出時は支援しますとの申し出もいただいています。	利用者は天気の良い日には事業所周辺を散歩したり、ボランティアの方による自家菜園の畑仕事を手伝ったり見学したりして五感を刺激するなど、四季の移り変わりを楽しんでいる。 いつでも気楽にウッドデッキに出て外気浴を楽しめるようにしているほか、花見や洞峰公園への紅葉狩り、スーパーへの買い物など、外出機会を積極的に増やし、気分転換が図れるようにしている。 利用者の誕生日には職員と一緒に外出に出かけるなど、楽しい一日になるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお預かり金として、ご家族よりお金を、施設でお預かりしています。その中から、ご家族に確認しながら買い物をしたり、外出時に使用させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に確認しながら、外部からの電話の取次、掛けたいとご希望があるときは掛けられるように支援しています。手紙のやり取りもご自由に行って頂いています。が、ご本人が難しくなっている所の支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節ごとの飾りをしたり、椅子には座り心地が良いように一人一人工夫をしたりしています。開放的な吹き抜けの天井からは明るい日差しが差し込んでいます。自由にデッキとの行き来ををし、肌で季節を感じとることができます。ご自分の居室前に、似顔絵があり、認識しやすい工夫をしています。	居間兼食堂は天井が吹き抜けで、天窗を設置して採光や換気に配慮した造りになっており、明るく開放感のある空間となっている。 居間から続くウッドデッキにはテーブルや椅子が配置され、お茶を飲みながら気軽に外気浴が楽しめるようになっている。 居間の壁には、職員が行事の時に利用者の様子を撮影した楽しい思い出の写真を掲示して、心和む演出をしている。 廊下は広く手摺を設置し、歩行訓練や手押し車での移動がスムーズにできるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファなどで、一人でゆったり出来るスペースを設けています。ご本人の意向に添えるように、支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご本人やご家族と相談しながら、馴染みの物の持ち込みをしていただいています。状況に応じ、ご本人と相談しながら配置替えのお手伝いをしています。ご家族の写真を貼るなどし、心地良く過ごせるよう支援しています。	居室にはベッドやエアコン、カーテンを備え付けている。 利用者はテレビや整理筆筒、椅子など使い慣れた馴染みの物品や位牌、仏壇など大切な物品を持ち込んだり、家族の写真などを飾ったりして居心地よく暮らせるよう工夫している。 居室のドアには利用者の似顔絵が飾られ、利用者が迷わないよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人に応じた支援を心がけ、出来ないところへ手が届くよう、日頃から職員間のコミュニケーションをはかり必要な支援をしています。居室前には似顔絵や、目印を付けたり、日付の気になる方へ、職員の名前が気になる方へわかりやすく掲示するなど工夫しています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 グループホーム けやき

作成日 平成27年8月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	玄関やウッドデッキに続く窓の施錠は身体拘束に該当するため、「経過観察記録」や「再検討記録」を整理し、全職員で解除に向けて取り組むことを期待する。	・身体拘束禁止に関する職員の意識の徹底 ・玄関施錠解除に向けた取組みが出来る。	・ウッドデッキは即日開錠 ・身体拘束禁止の研修を見直し、意識の徹底を図る。 ・Bユニットは既に時間を決め玄関施錠解除を行っている。 ・Aユニット職員とユニット会議を通し解除に向けた取組みを行う	1ヶ月 ～ 12ヶ月
2	35	避難訓練においては自主訓練を含め年2回以上実施することを期待する。	・年2回の避難訓練を確実に行う	・平成27年5月15日避難訓練実施 ・年間計画を立て自主訓練を行う。	6ヶ月 ～ 12ヶ月
3	33	看取り介護に関する職員研修を実施することを期待する。	・職員に対する看取りの研修を行う。	・9月中頃までに研修計画を立て、訪問看護ステーションに依頼 ・訪問看護ステーションとの連携を図り看取りに関する研修を行う。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。